

岐阜新聞真学塾

出題 蜚雪ゼミナール 陽南本荘校・松吉琢磨

問題【社会】

不平等条約の改正について①～⑤に答えましょう。

- ① 1858年に日本がアメリカと結んだ条約は。
- ② 1871年に岩倉具視を全権大使として欧米に派遣されたのは。
- ③ 1886年にイギリス船が沈没し、日本人25人が水死した事件は。
- ④ 1894年に領事裁判権の撤廃に成功したのは誰ですか。
- ⑤ 1911年に関税自主権の回復に成功したのは誰ですか。

豆知識 雑学コラム

「半端ない」→「いい子」へ

さて、今回のテーマは不平等条約の改正です。江戸時代の終わりに結んだ日米修好通商条約は「領事裁判権を認める、関税自主権がない」というものでした。これは、欧米から見てまともな「国」と認められていなかったということです。当時の人は悔しかったと思います。この不平等条約を改正するために、明治政府のたくさんの人たちが頑張ります。

岩倉具視が岩倉使節団として欧米に行ったのもその一つです。覚え方は「岩倉、半端ないって！」（はんパナイ＝1871年）。日本代表として欧米に行った岩倉具視は「半端ない」ののですが、かなり気合を入れていったことが教科書にある写真からも分かります。周りの木戸孝允、山口尚芳、伊藤博文、大久保利通は洋服でざんぎり頭です。今見ても違和感がないですね。でも真ん中の岩倉具視を見ると「あれ？」ってなります。それは彼だけが和服&ちょんまげなのです（ちなみにアメリカで息子に「父ちゃん、その髪型はないわー」と言われてやめています）。ただ、この時に条約改正はできませんでした。

そこで、欧米に認めてもらうために欧米の真似をすることにしました。これが欧化政策です。外務大臣の井上馨は、鹿鳴館という洋風のおしゃれな建物をつくってダンスパーティーをおこなったりしました。でも、これもうまくいきませんでした。

そんな中で起きたのが1886年のノルマントン号事件です。和歌山県の沖でイギリス船が沈没し、25人の日本人が亡くなってしまいました。ところがイギリス人船長には軽い罰しか与えられなかったため、日本中の人々が怒りました。なんとか領事裁判権を撤廃させなきゃ！ とみんなが思いました。そしてその8年後の1894年に、外務大臣の陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功します。そして1911年に、外務大臣の小村寿太郎がアメリカから関税自主権を回復します。「いい子が関税自主権回復！」（イイ＝1911年、コ＝小村寿太郎）で覚えましょう。

日米修好通商条約から不平等条約の撤廃まで、53年もかかっています。大正時代は1912年からですから、明治時代のうちになんとか撤廃に成功したということですね。お疲れさまです！

【解答】 ①日米修好通商条約 ②岩倉使節団 ③ノルマントン号事件 ④陸奥宗光 ⑤小村寿太郎